

《履修上の留意事項》 担当教員の都合により授業の順序を変更する場合は事前に通知する。
講義内容資料は適宜配付するので、授業中の録音、録画、写真撮影等は厳禁とする。
面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》教授 / 三浦 宏子 教授 / 千葉 逸朗 講師 / 水谷 博幸
非常勤講師 / 井田 有亮 非常勤講師 / 北嶋 詩穂

【概 要】

歯科保健医療が、生命の尊重と人間の尊厳の保持を中心として歯科医師、その他の歯科保健医療従事者と住民・患者との信頼関係を軸に、歯科医学、医術及び医の倫理の社会的適応を一定の適切なレベルに維持することであることを理解し、この視点から良質かつ適切な歯科保健医療（福祉）サービスのシステムとその供給を、自然科学及び人文・社会科学の面から学習することを目的とする。

【学習目標】

高齢社会の到来と生活習慣病に対する理解を前提として、保健医療福祉の理念、システムについて説明する。
歯科医師としての社会的役割と責任について説明する。
住民・患者を生活者として見る視点を拡大し、歯科医療の専門家としてニーズに応える方略について説明する。
住民・患者に対して必要な歯科保健医療システムについて説明する。
我が国の歯科保健医療の現状と課題について説明する。
保健医療のプロフェッショナリズムについて説明する。
グローバルな保健医療の現状と将来予測について説明する。
歯科医師として歯科治療の担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献するための方略について説明する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 { 4	健康と疾病の概念および保健・医療・福祉・介護の法規	- 口腔疾患と社会のつながりを学ぶ。 - 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法、医療法、歯科口腔保健法、介護保険法等の関連する諸法規の内容を理解する。 B-2-1)-	三浦宏子 水谷博幸
5	地域医療連携と地域包括ケアシステム	地域医療連携と地域包括ケアシステムの枠組みを理解するとともに、地域での実践事例を学ぶ。 B-2-2)-	三浦宏子
6 { 7	保健医療分野の情報管理	- 診療情報・診療記録等（電子カルテを含む）の情報管理について理解する。 - レセプト情報の利活用について学ぶ。 B-2-2)-	井田有亮
8 { 9	歯科医療の質と安全	- 院内感染対策の重要性を理解する。 - 医療過誤・医療紛争を防止するための知識を得る。 A-6-3)- 、 B-3-1)-	千葉逸朗
10 { 11	社会保障と医療経済	- 社会保障制度、医療保険と介護保険の概要を理解する。 - 医療経済と国民医療費の現状を理解する。 B-2-2)-	三浦宏子
12	国際口腔保健	- 国連「持続可能な開発目標（SDGs）」等の国際保健に関する諸施策を理解する。 - 国際口腔保健協力における現状と課題を理解する。 A-7-2)-	三浦宏子
14 { 15	歯科医療提供体制・歯科医療マネジメント	- 歯科医療提供体制の現状を統計資料に基づき理解する。 - 今後の歯科医療マネジメントの課題について考察する。	千葉逸朗 北嶋詩穂

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		A-7-1)-	

【評価方法】

定期試験（90％）90、課題レポート（10％）

【備 考】

教科書：「スタンダード社会歯科学」石井ら 編 学建書院

参考書：令和元年版 「実務衛生行政六法」 新日本法規

その他：外部講師の講義は遠隔配信のみで実施する。

【学習の準備】

講義内容の教科書部分を必ず30分程度読んでから授業に臨む。

法律関係の語句が多く出ていることから、授業の復習はノートを別に作りその日のうちにまとめる。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を社会歯科医学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を社会歯科医学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を社会歯科医学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を社会歯科医学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を社会歯科医学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

三浦 宏子（歯科医師）、千葉 逸朗（歯科医師）、水谷 博幸（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

社会歯科学は、個人の健康のみならず、地域社会、国際社会全体に寄与する科目であり、学理に則った教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。